

令和五年三月二十日（月）終業式

皆さん、おはようございます。

新型コロナウイルスの影響を受け始めて三年以上となっていますが、ようやく感染者数も減少し、マスクの扱いにも変更が出てきています。

三月二十日付けで、春休み中の感染対策（新学期以降のマスクの着用の変更）についてのお知らせ文書を配布してもらいますので、引き続き、密を避け、換気や飛沫拡散等について注意をお願いします。本校には自宅を離れて広範囲から入学生等の仲間が集うことや、寮や下宿で集団での生活をする人が多く、感染症対策が他校以上に引き続き重要です。

さて、十年に一度とも言われた厳しい寒さに見舞われ、大雪で京都丹後鉄道が停止したため、臨時休業にせざるを得なかったり、授業日を確保したりと、本校も影響を受けた三学期でしたが、こうして皆さんとともに、無事令和四年度修了の日を迎えられました。

後の伝達表彰にもありますが、部活動を中心に、大変多くの輝かしい成果が収められた一年の修了の日を迎えられましたこと、生徒の皆さんに感謝し、大変ありがたく思っています。

本日私からは、二点お話をします。

一点目、突然ですが、WBC（ワールド・ベースボール・クラシック）・野球の世界大会、皆さん観ているでしょうか？この大会で、日本は明日二十一日、準決勝戦に出場するところまで勝ち進んでいます。大谷翔平選手、村上宗隆選手の活躍など、話題になっていますが、皆さん佐々木朗希選手を知っているでしょうか？

プロ野球・千葉ロッテマリーンズの選手（ピッチャー）で、昨年の四月十日には、日本プロ野球史上最年少での完全試合（先発投手がヒットはもちろんフォアボールなどもなく一人のランナーも出さずに勝利することで達成する記録）を、二十八年ぶり十六人目という記録を樹立したことで知られています。この度のWBCにも選手として出場し、東日本大震災が起こった三月十一日は先発投手でありました。

現在二十一歳、出身は岩手県陸前高田市 岩手県立大船渡高等学校出身、高校時代でも大活躍の選手で、投球のプロ最速記録は二〇一六年に大谷翔平選手が記録した一六五キロ。佐々木朗希選手は、高校生でそれに匹敵する一六三キロを投げたことでも知られています。夏の甲子園出場を決める岩手県の決勝戦で、チームは破れ、甲子園出場が叶わなかったのですが、その佐々木選手が出場しておらず、決勝で敗れたのは佐々木選手を出場させなかったのが原因ではなかったかというような話題もありました。

その佐々木選手は、実は二〇一一年三月にあった東日本大震災で、その津波で父と祖母を亡くし、さらに実家も流された被害を受けています。そんな境遇でもあります。

ここで、佐々木選手の言葉を紹介します。「こうなりたいという自分があって、それがあ

るから練習も頑張れる。」です。

言い換えますと、将来になりたい自分の姿を展望し、それに近づくために、どう行動するかを考えることが、今の自分を奮い立たせ、主体的な決断や行動ができるということであると思います。

皆さんも、佐々木選手の言葉のように、新学期に向け、本校を卒業した後のなりたい自分の姿を展望してください。明日からの春休みは、教科の宿題等が少ない時期かもしれませんが。しかし、それぞれが、教科の復習・予習等の学習、もちろん出された課題、資格取得、読書、進路の調査や対策、一般教養、部活動などなど、目標を立てて、将来なりたい自分を想像し、是非何か、今までとは違う視点で、新たなことに取り組んでもらえればと思います。

二つ目は、被服室の工事についてです。

海洋高校には、年々、京都市内など、遠方から学習内容の魅力を求め、入学する生徒が増えていきます。ここにいる皆さんも、だいたい半数は寮または下宿から通学しています。さらに、下宿の不足が起こっていますので、下宿に入れない人をなくすために、六人分の寝られる部屋を準備しています。この他にも寮の工事をして、二人分の定員を増やしてもらっています。被服室は授業などで使えなくなりましたので、知っておいてください。

現在実習船「みずなぎ」は、山口県下関市のドックにて点検・整備中ですが、こうして学校生活を送れているのも、多くの方々の支えがあつてこそのものであることを忘れないでください。

結びになりますが、三月一日に、三年生が卒業しました。ここにいる皆さんは、それぞれ二年生、三年生に進級し、四月から新しい学年になります。後輩が入学してくることも、一層責任感ある行動が求められてきます。

次は四月十日(月)、離着任式、始業式に登校しますが、十一日は入学式と、学校にとって大切な年度の始まりの時期を迎えます。

この春休み、コロナの規制が緩和されることもあり、どちらかと言うと世間は浮かれモードかもしれません。四月一日から、自転車にヘルメット着用義務化(努力義務)にもなりますが、それぞれが注意して事故などに遭わないように、また体調を整え、一日一日を大切に過ごして、よいコンディションで新学期を迎えられるようお願いしておきます。私からは、以上です。

令和五年三月二十日

京都府立海洋高等学校

校長

上林

秋男